

同窓生の新刊紹介 『ひとつ屋根の下の誘拐』

酒本歩さん (78 期、坂城町出身)

上原 昇 (2 組)

ミステリー作家でペンネーム・酒本歩さんは本名が和田剛浩、78 期の同窓生です。お酒と読書(本)と散歩が好きな酒本さんは坂城町四つ屋出身で、関東同窓会会報 111 号に人物と著作の紹介がされています。

新作『ひとつ屋根の下の誘拐』が 3 月 2 日に、原書房から刊行されました。

今般、前作の『ひとつ屋根の殺人』と合わせて読みました。

2 作はシリーズではないようですが、舞台が上田市近辺で馴染みがあり、登場する警察関係者の顔ぶれは共通していますので、連続した親しみがわかります。

内容はネタバレになりそうなので触れませんが、年金不正受給や白血病のドナー問題など現代的なシリアスなテーマも存分に盛り込まれています。

酒本さんが読者への挑戦と言っている「伏線明示型ストーリー」は、私にはいまひとつピンときませんでしたが、ひとつのトライアルかもしれません。

結末が分からないまま読み進め、最後で二転三転のどんでん返しのミステリーは、ハラハラドキドキします。

本作については、前作に比べ、文章の間にちょっとした余裕(ユーモア)が感じられ、筋の運びも滑らかになっています。

早稲田大学政経学部卒(たまたま私の後輩になります)で社会人(リクルート社)を経験して、遅咲きの作家デビューという異色の経歴の酒本さんですが、今後の文壇での活躍と次作に期待したいと思います。

<http://www.harashobo.co.jp/book/b672375.html>

3 月 6 日に、酒本さんが地元の坂城町を表敬訪問訪しています。

<https://www.town.sakaki.nagano.jp/page/13514.html>

特にミステリー小説がお好きな諸氏にお薦めします。

(2026 年 3 月 15 日 記)

以上